

私のコロナ体験記

2020-6-12 千葉宜嗣

事件は昨年秋におきました。

かかりつけの医師から”一度、大きい病院にて診察する様に”と言われ、渋々、府立急性期病院へ検診に参りましたら、”心臓の血管が切れ掛かっている”と、有無を言わせず即入院です、家族を呼んだり、大ごとになってしまい、本人が驚く始末、そしてその日の夕方にカテーテルによる手術をされてしまいました。

これで元気に成ったと思っていたら、当医師から”心臓弁がおかしい”当院内の心臓弁専門医に診察を受ける事を勧められ、又々家族同伴の上説明を受け、弁膜症と判断され、今のうちに再度、手術を受ける様に勧められ納得したものの、その11月には高津5期同期会、松虫中の同期会が有るので、翌年1月になら手術を受けたいと駄々を捏ねていましたが、「何とか同窓会には間に合う様にしてやる」との言葉を信じ、結局同窓会直前の10月末に入院、翌日に手術を受けました。そして確かに2週間程にて退院出来、無事同窓会をやり遂げました。

今、考えて見ますとも今年に入ってからなら、新型コロナウイルスの猛威がおそい、手術どころではなくなっていたかもしれず、あの時で良かったと思っています。

その新型コロナウイルスですが、未だ収まり切らぬまま、大阪では規制は有るものの、夜の歓楽街も開放されそうに成って来ました。2~3か月に一度はぶらりと新世界界隈を訪れ、古くからのお店の知人と噂話をしてきましたが、今年に成ってからの寂れ方は尋常ではありません。以前、通天閣社長と会いました折に、新世界が食べ物、特に串カツだけの店ばかりの街に成って行き、歓楽街としての色は無くなってしまい寂しいと話した事を思い出します。

昔、と言っている位前に、私がこの5期生のホームページに書き始めました「新世界物語」の初めの頃、終戦、集団疎開から引き揚げて来て、戦災から新しい住まいのアベノ旭町から、元の小学校へ通う途中は焼け爛れて何も無い街だった、その新世界の元ジャンジャン町の通りを抜けて、焼け残った映画館の有る街角にでると、寒い朝から行列が出来ていて、何で並んで居るのかを恐る恐る男の人に尋ねてみたのです。「ボン、ここは熱いフグ汁を吞ませて呉れるんや、一杯？円や」と教えて呉れたのです。ここが後に有名に成った、”ふぐのづぼらや”の始まりでした。



今日、テレビのニュースに衝撃を受けました。このづぼらやが、新型コロナウイルス禍に負けて廃業する事に成ったとの事なのです。昭和20年(1945)秋開業して令和2年(2020)約75年の名門食堂もコロナの軍門に降ったニュースは悲しい知らせでした。懸命に動き、うまくいっていた通天閣観光(株)も暫く厳しい冬の季節が続く予感がいたします。

ところで先日5期zoomミーティングのお知らせが届きました。

私のポンコツPCは、まずDVDが駄目になり、好きな演歌や色々な音声も耳にイヤホーンを差して聞かないと聞けない有様に成って、何とか安い世古物でもオークションで買い替えようと思っていました。先日、知人から安いからとノートPCを勧められ、見せて貰ったら、ワード、エクセルは設定されており、通電してDVDを使って見た所、映像も旧来のPCより鮮明で綺麗、後は駄目円で1万円にて引き取りました。専門の修理店に見せましたら「10年以上の古いPCだ、長く持たないかも」といわれたものの諦め切れず、日本橋のパソコン工房に持ち込み、Outlookを設定して欲しいと相談、結局、OCNメールしか設定できないといわれ承諾しました。現在、旧来のPCから色々写し替えて何とか自己流に使える様に頑張っている所だったので。残念ながらカメラ設定も上手く行きません。Zoom会参加は見送りました。悪戦苦闘が続いていますがい付かは参加して皆さんと顔をあわせたいものです。